

# 緊急時の救命措置「人工呼吸法・AEDの使用法」体験講座開催

私達、防災VGの医療・介護チームは7月25日、自治会館にて上記の講習会を行いました。

釜利谷消防所・武居所長、所員1名、第6消防団2名の指導の下、見回り隊の方々をはじめ、なんと総勢38名の参加となりました。

救命措置の内容は2体の人形を使って、3人一組で人工呼吸法とAEDの使用法を実体験しました。

救命処置の流れは

- ①反応を確認する、②大声で叫び応援を呼ぶ、③役割を決め119番通報とAEDを手配する、④状況を把握して、すぐ手による胸部圧迫法（1分間に100～120回）、⑤AEDが到着したら電源を入れ、音声情報に従って救急車（救命隊員）が到着するまで救命措置を継続する。



また、消防団の方から夏山で人工呼吸などの救命措置をして、後遺症も残らず助かったとの事例情報もあり、一層熱が入ったようです。

当自治会でも全員が人工呼吸法や胸部圧迫法の救命措置を心得ていれば、どれだけ安心出来ることでしょう。

また朝のテレビ番組で紹介された、「QQグローブ」という、救命処置対応の優れものの手袋の紹介です。手袋に救命措置に必要な手順が印刷されており、気が動転し、戸惑っている状態の中でも、適切に対応できるというものです。まずは、まさかの時、使えるよう自治会館に置く考えです。

消防所、消防団の方々、参加して下さった地域の皆さんのご協力により、こうした機会を持てたことを感謝しております。ありがとうございました。

防災VG「医療・介護チーム」一同  
リーダー 木部和子

# 納涼大会に初出店 ～にぎわい亭～

徳岡代表のご尽力により、8月11日開催の納涼大会に防災VGとして初出店し、ブースを設けることができました。

どのような形式で、何を販売するか、検討を重ねた結果、

一つ、ポリ袋を使っておこめを炊くデモンストレーション。

一つ、ワインとおつまみを安く提供できるように、ワインの銘柄、おつまみもいろいろ試して、決めました。お店の名前は「にぎわい亭」です。

販売は「にぎわい亭」なのに、思うようにはいかず苦戦しました。しかし、ワイン片手に談笑している情景が見られるようになり安堵しました。

来年は、反省も踏まえて、子供向けに喜んでもらえるものを、そして大人も子供も楽しめるように考えていきたいと思えます。

初めての出店に携わっていただいたスタッフの皆様感謝・感謝です。

食料・物資チーム 乙川さよ子

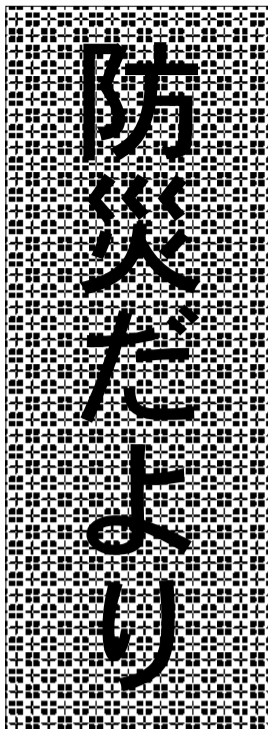
## 防災VG店を含む3墨側模擬店照明を 自動車発電の電気

今年の納涼大会の電気は自動車とポータブル発電機で発電したもので開催しました。即ち東電からのものではありません。

受電工事が不要でしたのでダスキンへの外注工事が増えたにもかかわらず、設置費用は増えなかった模様です。自動車発電のPRだけでなく、自動車発電が大会費用の抑制にも寄与したことになります。

発電車と防災VG模擬店は隣接し、防災VGコーナーとなりました。ただ模擬店列の端という位置の影響もあってか訪問客数が他店に比べて少し寂しかったようです。来年は電飾の工夫など一工夫が必要なようです。

防災VG情・通・電チーム リーダー 荒木健治



関ヶ谷自治会防災部  
防災ボランティアグループ  
発行

## 第3回防災ボランティア懇親会開催

防災ボランティアグループ（防災VG）の第3回懇親会が開催されました。互いに日ごろの慰労や情報交換など和やかな雰囲気でした。お酒も入り舌が滑らかになったところに、防災VGの課題等について意見交換が行われ、それぞれの思いを共有することができ、とても有意義な会となりました。

## 2019年度「援護希望者宅訪問」報告

登録いただいた新しいリストにより、6月に「担当ボランティア」が各戸訪問を行いました。これは、4月に民生委員と防災ボランティア・グループリーダーによる訪問の後を受けての活動で、フェイスツーフェイスでお互い確認し合うために行います。

お留守で面会出来なかった人も多くありましたが、担当ボランティアの皆さんが電話連絡、再訪問や再再訪問と熱心にフォローしてくれました。データとして訪問した件数、お会いできた件数、お留守で挨拶状を投函してきた件数は表1の通りです。

【表1：訪問結果】

	要援護者登録数	会えた方	お留守	ボランティア数
第1グループ	77人(55世帯)	72人(51世帯)	5人(4世帯)	24人
第2グループ	57人(44世帯)	44人(36世帯)	13人(8世帯)	35人
第3グループ	77人(58世帯)	69人(52世帯)	8人(6世帯)	24人
計	211人(157世帯)	185人(139世帯)	26人(18世帯)	83人

### ☆お会いできた方のコメント

- ①多くの人が体のあちこちに障害があり、日常生活もままならず、いざという時は支援をよろしく
- ②自分は若い、幼児をかかえているので、登録しました（頑張ってください）
- ③多くの要援護者の皆さんからVGメンバーの心温まる配慮や励ましの訪問に感謝しますとの言葉をいただいた

### ☆今回、訪問して感じたこと

- ①当然のことながら、年々高齢化が進み、援護希望者の皆さんも日常の生活において、不便苦勞を感じており、ボランティアメンバーへの期待の高さを感じました
- ②こうした状況下で、ボランティアメンバーも徐々に高齢化し、又、数戸のお宅を担当しており、いざという時にどれだけ迅速に対応し、皆さんの期待に答えられるのか不安に感じている
- ③今後ともに班単位でお互いを見守ることを原則としてボランティアメンバーは班長、地区長との連携、協力関係を推進し、実効を上げていかなければならないと思えます

防災VGグループリーダー  
武居、小澤、小松

- ◆2019年7月20日（土）11時30分～14：時
- ◆出席者：自治会役員：栗原自治会長、原総務部長、民生委員、ボランティア 計27人

- ➡第2グループ・リーダー小松さんの司会で進行スタート
- ➡徳岡代表の挨拶 ・栗原自治会会長の挨拶 ・参加者の自己紹介
- ➡山本副代表の乾杯後 立食で和やかに懇談

- ➡豪華な食事で暫くの歓談後、今日の感想や常日頃考えていることなど意見交換（常日頃考えていることなどの意見は裏面をご覧ください）

- ◎今年初めて防災VGから納涼大会に「にぎわい亭」を出店。その時のメニュー（ワイン・おつまみのチョコレートなど）を試食してもらい、決めてもらった。

- ✓最後、なぜか残った飲み物など（ビール・おつまみ）のオークションがやけに盛り上がった！

- ➡和泉副代表の締めくくりの挨拶

過去2回の懇親会より参加者は少なくなったが、一番盛会裡の懇親会となった。

防災VG第3グループ・リーダー 武居晋亮

## スタンドパイプ消火訓練について

6月29日（日）9：30より、方丈公園北側にて、スタンドパイプ消火訓練を行いました。当日は小雨であいにくのお天気でしたが、総勢47名（対象地区者：29名+子ども3名、消防署/消防団8名、防災VG：77名）の方にご参加いただきありがとうございました。

スタンドパイプとは、いざという時、住民が使う消火資器材のひとつです。関ヶ谷自治会エリアは、高台にあるため液状化しにくく、道路の幅や家屋の間隔が広く、火災が延焼する恐れが少ないことから、消防隊が駆けつけるのは金沢区の中でも最後の方だといわれています。そのためそれまでの間、地域住民が協力して消火にあたる必要があります。

今回の訓練では、消防隊員のデモンストレーションのあと、各手順の詳しい説明を交えながら実際に参加者で行いました。とくに印象的だったのは、消火栓の開け方でした。マンホールの蓋を専用の器具を使って開けていくのですが、手順とコツを教えてもらおうと、一見、重くて開けるのが難しそうでしたが女性や子供の方でも一人で開けることができました。またスタンドパイプやホースが正しく連結できているかを引っ張って確認するなど、訓練ならではの細かいポイントも教えていただきました。最後は、3つの担当に分かれて、「消火栓を開ける～ホースを延ばしてつなぐ～放水する」の一連の流れで訓練を行いました。参加者の方からは、実際にやってみると自分でもできることが分かったなどのお話を伺うことができました。

防災部長 森田永愛



## 防災気象情報と警戒レベルとの対応について

防災情報をもっと広く有効活用できるように、国は今年の雨のシーズンから、5段階の「警戒レベル」の運用を始めた。

災害発生のおそれがある場合、大きく分けて2タイプの情報が発表される。市町村が出す「避難情報」と、国・都道府県が出す「防災気象情報」。「避難情報」は、避難勧告や避難指示（緊急）などで、住民に災害の危険性を知らせ、避難行動を促す情報。

「防災気象情報」は、気象庁（气象台）や国土交通省（河川事務所など）、都道府県の砂防・河川部局などから発表される情報。各レベルに応じて「住民が取るべき行動」を示している（下表参照）。

### 【警戒レベルと取るべき行動及び情報内容】

警戒レベル	取るべき行動	避難情報 (市町村が発令)	防災気象情報 (国・都道府県・気象庁)
5	命を守る行動	災害発生情報	大雨特別警報/氾濫発生情報
4	全員避難	避難指示（緊急） ・避難勧告	土砂災害警戒情報/ 氾濫危険情報
3	時間のかかる人は避難	避難準備 高齢者等避難開始	大雨警報/洪水警報/氾濫警戒情報/高潮注意報
2	避難行動の確認	—	大雨注意報/洪水注意報 氾濫注意情報/高潮注意報
1	心構えを高める	—	早期注意報 (警報級の可能性)

レベル5：既に災害が発生している状況です。命を守るための最善の行動をとりましょう

レベル4：速やかに避難先へ避難しましょう。公的な避難場所への移動が危険と思われた場合は、近所の安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう

レベル3：避難に時間を要する人（ご高齢の方、障がいのある方、乳幼児等）とその支援者は避難をしましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう

レベル2：避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう

レベル1：災害への心構えを高めましょう

## 新潟・山形地震被害状況と教訓

6月18日午後10時22分頃、新潟県村上市で震度6強の地震が発生しました。気象庁によると、地震の規模はマグニチュード6.7、山形県鶴岡市では震度6弱を記録。被害は、山形、宮城、秋田、新潟、石川の5県で計28人が重軽傷を負ったそうです。また、各地でブロック塀の倒壊や屋根瓦の落下、店舗での商品の破損などでした。

地震があったのは午後10時22分と遅い時間帯だったのに、多くの人が避難行動をとったとのこと。

✓震度6弱の鶴岡市小岩川では、高台の寺に約60人の住民がかけ込んだ。

✓新潟では役所などの指示や勧告を待たず、自主的に判断した人も少なくなかった。

✓熊本地震や、1964年の新潟地震を想起し行動をとった。

✓新潟県・粟島は、島民約340人のうち130人程度が避難勧告もないうちに高台に避難した。近所で声を掛け合って避難したり、足が弱い人は手押し車を使って歩いたりしていた。「日ごろの訓練の経験を生かした」と住民は語っている。

✓東日本大震災を教訓に「自らが避難を判断する」「避難を決めたら、速やかな避難誘導を行う」などの津波避難行動心得を策定している。

鉄道会社の車掌は、最近こうした大震災時の教訓を学んだばかりで「地震で避難したのは初めてだったが勉強ができた」と語りました。



### 【教訓】

行政に頼らず一歩先の避難行動！  
過去の教訓から学び、避難行動に生かす！

## 第3回防災VG懇親会で活発に意見が

7月20日開催の防災ボランティアグループ懇親会では、出席者から次のような意見があり、今後の活動の参考になりそうです。

- ・要援護者の要件がはっきりしないのではないか。よって、要援護者に申請する方の個人差があるのでは
- ・自分より元気な方が要援護者にいるのはどうなのか。要援護者は要援護者の事情があるのでその点の配慮を
- ・要援護者宅訪問について、要援護者から活動に対して感謝の言葉を多く聞いている

## 9月21日の自治会防災訓練内容と自助力

9月21日（土）に実施する自治会防災訓練は、

- 1) ブロック内の安否確認
- 2) 班長、地区長相互の連絡確認
- 3) AED装置の使い方確認

の3項目の確認を目的に、第一部「安否確認訓練（9時～10時）」、第二部「AED使用訓練（10時30分～12時）」

の二部制で実施します。



防災訓練は、いざの時の手順を点検することや行動をスムーズにするために実施します。つまり、自分自身の減災が目的です。

自助7：共助2：公助1、と言われたのは昔のこと、今は自助9：共助1です。自助が9の力を発揮できれば、自身の災害を小さくすることができ、避難生活をより日常に近づけて不自由を小さくすることができ、共助の負担を減らすことができます。

自助とは、

- ☆食・水・衣の備え、☆トイレの備え、☆電気の備え、☆避難行動の備え

の四つの備えです。

中でも”電気の備え”が最近注目されています。大災害が発生すると電気の回復に最低1か月、最悪3か月かかると言われていています。乾電池の備蓄は当然ですが、頼りになるのが”マイカー”です。

マイカーのバッテリーを電源として、①簡便なシガーライターを経由する、②後付けインバーターを経由する、③そして車内に備え付けのコンセントを使うの3つの方法\*のいずれかにより、携帯やスマホの充電から、テレビ、冷蔵庫やエアコンなども動かすことができます。テレビなどが使えれば情報収集が十分でき、避難生活などに反映させることもできます。

マイカーも備えのアイテムに入れ自助力を高めましょう。マイカーがないお宅は、共助で近所の保有宅と話し合っ、供用いただけるようにしておきましょう。

注\*①②は一般的なガソリン車、③はEV・PHS車



防災ボランティアグループは、災害時にマイカーを電源供給車としてご協力いただける方に、ステッカー（下図）を無料配布しています。ご希望の方は、お申し出ください。



後ろのナンバープレートの横に貼った例

車庫の柱に貼った例

連絡先：防災VG 荒木 健治 (13-1) ☎782-4286

- ・要援護者は毎年増えるがボランティアは増えない。2人一組で7～8人を担当するのは無理で、検討しなければならないのでは
- ・隣近所の方たちとのコミュニケーションの充実を  
ゴミ出しなど少しの時間を活用し近隣の方たちとの会話
- ・いざ災害があったら！  
ボランティアはまず自分・家族・近隣の方の安否確認を最優先にして、担当のところへ  
など
- ・和気あいあい活発な意見交換が出来て、有意義な懇親会であった。  
(懇親会全体の様子については、おもて面をご覧ください)